

福音時報



マリアの献げたナルドの香油

そのとき、マリアが純粋で非常に高価なナルドの香油を一リトラ持って来て、イエスの足に塗り、自分の髪でその足をぬぐった。家は香油の香りでいっぱいになった。(3節)

(ヨハネによる福音書12章1～8節)

はた ち か
畑 知 佳

過越祭の六日前、主はベタニアに行き、そこでマルタとマリアの姉妹と、その兄弟で、主がよみがえらせたラザロを交えた夕食の席に着きました。一度死んだラザロが生き返り共に食事の席に着いていることは、同席したすべての人に、主への信仰を引き起こし、大きな慰めと喜びを与えました。

しかし一方でラザロのよみがえりは、主イエスの「時」を来たらせる直接の契機ともなりました。主がラザロになさったことを聞いた祭司長たちやファリサイ派の人々は最高法院を招集して、イエスを殺そうと企み、逮捕の機会を窺ったからです。

そして主御自身は、行く手に備えられた十字架に自ら進んでいかれる御心でした。ラザロの死に際し、主は「この病気は死で終わるものではない。神の栄光のためである。神の子がそれによって栄光を受けるのである」(11章4節)と言われた通りです。

それゆえベタニアでの夕食の席は、喜びの中にも時迫る緊張と厳粛さがありました。

その所でマルタは給仕に専念しましたが、マリアはナルドの香油を惜しげもなく注いで、主の足に塗り、自分の髪でぬぐいました。

以前にもマリアは忙しく働くマルタの機嫌を損ねながらも、主の話に聞き入って、自らの信仰を表しましたが、この度もマリアは、マルタのようにでなく、直接主に近づき、そして自分の持てるものすべてを主に差し出します。それは、イエス様こそ救い主であり、真の忠誠を示すべき方ですとの明確な告白的行為でした。

周囲では主を拒み、否定し、攻撃するサタンの力がうごめいていましたが、たとえ他の人がこの方を救い主と認めず、殺すとも、彼女自らは全幅の信頼と愛を主に示しました。そうしてマリアはその深い

説教	マリアの献げたナルドの香油	…… 畑 知佳	…… 1
大信仰問答	CATS・愛⑨		
	エッセイ「第3章 人間」	…… 中家 契介	…… 2
	新約聖書に聴く「主の祈り」(3)	…… 後藤 憲正	…… 3
目次	教会、この地とともに④⑦ 西経堂伝道所		
	教会が建てられるために	…… 五十嵐喜和	…… 4
	コロナの現場⑩ コロナ禍での職場	…… 岡崎 美和	…… 5
	コロナ禍の中で②③ コロナ禍で与えられた喜び	…… 傳 英二	…… 5
	次世代へのメッセージ③ 「私の九十年」	…… 片野安久利	…… 6
書評	星の絵本はいかがですか	…… 八尋 孝一	…… 7
	渡辺鈴女先生 追悼文	…… 舩井 道誉	…… 7
	丹波 恵先生 追悼文	…… 森田 幸男	…… 8
	教会ニュース	……	8

信仰から十字架の主にすべてを献げたのです。

このマリアの信仰は、主を裏切るイスカリオテのユダとも比較されています。ユダは、香油をお金に換えて貧しい人々に施す方が有益だともっともらしい主張をして、マリアを非難しました。

マリアが持って来た香油は三百デナリオン相当。一デナリオンが日当に値するとのことですから、今の価値だと二百万円とか三百万円になります。確かに多くの貧しい人を救える額です。しかし、信仰のしるしをこの世の価値ではかることによって、マリアの行為を無駄な浪費と言うことができるでしょうか。そもそもユダ自身は自分のものから貧しい人に施す気はありませんでした。反対に彼は「盗人であって、金入れを預かっていながら、その中身をごまかしていた」のです。その偽善によって、ユダは主をも売り渡すことになります。人が真に自分自身を主に献げるかが問われています。

加えて、マリアの献げ物が主に受け入れられたのは、彼女が主の「葬りの日のために、それを取って置いた」からです。マリアは囚らずも主の死を予告し、さらには主が死を通してすべてのものの上に立つ永遠の王となられることを表しました。その時宜に合った献げ物のために、主はマリアについて人々に「この人のするままにさせておきなさい」と言われたのです。そしてそこから十字架の主の栄光に思いを向けるように促されます。

マリアの献げた香油によって、家中が芳しい香りに包まれました。私たちも自分の持てるものを主に献げて、「キリストを知るとい知識の香りを漂わせ」(コリント二2:14)る者とされたいと願います。

(遠軽教会牧師)